大学院の少人数授業の展開（2）

特別支援教育講座・山下　光

（1）授業の概要

大学院特別支援教育専攻特別支援学校教育専修の専門科目は受講者が5人以下の少人数になることが多いが，年ごとの変動がある。受講の動機や基礎知識はさまざまであり，授業形態，内容，水準もその年の受講生の関心やニーズによって調整する必要がある。この授業は演習形式の授業であり，言語コミュニケーション障害の心理的な側面に関する最新の文献を読み，知識のアップデートを図ることと，この領域で研究論文の作成を行うための基礎を学ぶことを目的としている。また，到達目標として，①聴覚言語障害に関する学術雑誌を読んで内容を理解できるようになる，②文献を読み，まとめることを通して実践研究の基礎となるスキルを身につける，③専門的な内容に関するプレゼンテーションとディスカッションができるようになる，の3つを設定している。

（2）実際の授業の展開

今年度の受講生は3名であった。授業時間は火曜2時限であり，授業のスケジュールは以下の15回であった。当初の予定では最初の6回については以下のようにテーマを設定して研究手法に関する解説の講義を行い，後半は学生が各自興味ある論文を紹介する形式を予定していた。

１．文献の探し方，読み方
２．プレゼンテーションの方法
３．レポートのまとめ方
４．実験法の基礎
５．調査法の基礎
６．質的な研究法

しかし，今回は受講生が3名と少なく，またその中の2名は他大学，他学部からの進学者で聴覚言語障害の研究に関する予備知識が不十分であった。そのため，受講生からも聴覚言語障害の研究の方法についての基礎的な知識についての講義を増やして欲しいという要望もあり，発表に関しては各受講生1回として，講義形式の授業部分を増やすことにした。また，教材についても当初は各研究法を用いた原著論文（和文）をもとに解説を行ったが，研究手法や統計に関する基礎知識が不十分でわかりにくいという意見がでたため，研究計画と統計に関する内容を，看護学領域の研究入門書，心理学科の学生向けの統計入門書を用いた講義を4回にわたって行った。また，大学図書館のホームページを利用したPub Medなどのデータベースの使用法，webベースで提供されているフリーの統計処理ソフトについても，実際に操作を体験させた。

（3）授業評価

14回目の授業で自由記述方式のアンケートを行った。①「内容に興味が持てたか」という質問には，3名全員が「興味が持てた」という趣旨の回答であった。②「理解しやすい授業であったか」という質問に対しては，全員が「難しくて理解が不十分だった部分がある」という趣旨の回答であった。最終回に口頭で確認したところ，「論文の統計の部分を読むことに関しては前よりわかるようになった気がするが，実際に使うのは難しい」，「webデータベースの使い方は何となくわかるが，英語のキーワードがわからないので検索しにくい。また，英文要旨を読んでも，内容がわからない」という回答があった。

③「資料や教材が適切だったか」という問いには，「論文は難しかったが，後から使った看護師用のテキストはわかりやすかった」という回答があった。

（4）反省点と総括

今回は受講生が3名と少なく，またその中の2名は他大学，他学部からの進学者で聴覚言語障害の研究に触れる機会が少なかったため，いきなり論文を読んで発表させるのには，確かに無理があったように思う。また，今年度のように受講生が少ない場合，発表形式の授業は学生の負担が大きくなる。講義部分と演習部分の量や内容についての再吟味が必要であると思われた。